場所・面積

東京都杉並区・0.129ha

管理目的

- 地域住民の憩いや、子どもたちの環境学習、レクリエーションの場としての管理。また、地域の生物多様性保全や健全な水循環の再生に貢献することを目的とする。
- 生きもの観察や体験イベントを定期的に開催し、遅野井川に存在する自然環境の価値や生物の知識など、モニタリングなどを介して広めるため。

サイト概要

- 「東京都杉並区北西部に位置する面積約0.129haの親水公園。
- 杉並区立井荻小学校のこどもたちの「身近な水辺がほしい」という思いを直接区長へ要望し「みんなの夢水路整備事業」として実現。
- 都立善福寺公園内の上池・下池をつなぐ延長約160mの水路。



土地利用の変遷

- もともとは武蔵野三大湧水池である善福寺池に源を発する善福寺川（神田川水系）の源流部。昭和17年の下池造成により上池と下池をつなぐ連絡水路となる。昭和30年代にはコンクリート三面張りの水路となるが、2017年に多自然工法により改修工事。

サイト周辺の環境

- 東京都杉並区北西部の、都立善福寺公園内に位置する公園内の水路。申請サイト周辺は、武蔵野の面影をところどころに残し、周辺の屋敷森や神社、大学構内には古くからの自然環境が残されている。

アピールポイント

- 遅野井川は杉並区立井荻小学校の生徒が、入れる身近な水辺を求めて区長へ直接伝え、実現した水辺施設である。子どもたちの声が区政に届いた貴重なケースである。子どもたちが描いたイメージをもとに、地域住民参加型のワークショップが開催され、設計された。完成後の維持管理は、区民団体と協定を結び、協働で施設の維持管理やモニタリング、そして普及啓発に取り組んでいる。
- 東京都23区内に位置し、地域住民が生物多様性保全を目的とした水辺に触れる場であり、善福寺川の源流である善福寺池の改善にも貢献し、都市型水辺空間のモデルケースとなっている。

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

都立公園の中の水路を多自然工法で改修した水路であり、都市に於いて、子どもたちが直接水や生きものに触れられる貴重な水辺となっている。また、環境学習の場として地域の学校が活用している。水路内には上下流部に生物の休息や繁殖のためのエリアを設け、人間が利用できる空間とのゾーニングを行っている。陸域は、武蔵野地域在来の植生を中心に保全再生している。

【主な植生】

水路：セキショウ、セリ、イなど。
陸域：オオバコ、イヌタデ、エノコログサ、スゲなど。

【確認された主な動植物】

環境省「全国水生生物調査」の指標種、東京都RDB絶滅危惧種や留意種、杉並区注目種が確認されている。



写真の撮影年月：2020年11月22日
写真の説明：地域の子どもと環境学習イベント



写真の撮影年月：202 年 9 月16 日
写真の説明：地域の子どもと環境学習イベント

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

都立公園の中の水路を多自然工法で改修した水路であり、都市に於いて、子どもたちが直接水や生きものに触れられる貴重な水辺となっている。また、環境学習の場として地域の学校が活用している。水路内には上下流部に生物の休息や繁殖のためのエリアを設け、人間が利用できる空間とのゾーニングを行っている。陸域は、武蔵野地域在来の植生を中心に保全再生している。

【確認された希少種】

IUCN RL 絶滅危惧種、環境省RL準絶滅危惧種、東京都RDB絶滅危惧種や留意種などが確認されている。

生物多様性の価値

価値（8）越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、地域の動物の生活史にとって重要な場

【場の概況】

都立公園の中の水路を多自然工法で改修した水路であり、都市に於いて、子どもたちが直接水や生きものに触れられる貴重な水辺となっている。また、環境学習の場として地域の学校が活用している。水路内には上下流部に生物の休息や繁殖のためのエリアを設け、人間が利用できる空間とのゾーニングを行っている。陸域は、武蔵野地域在来の植生を中心に保全再生している。

【対象となる動物種】

IUCN RL 絶滅危惧種、環境省RL絶滅危惧種、東京都RDB絶滅危惧種など。

【動物が利用している生活史】

対象動物にとっては、採餌と繁殖の場として重要である。

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容	モニタリング計画の内容
【管理計画の内容】 ・しがら柵を設置して維持管理を継続的に実施。 目的：土砂流入の防止と昆虫や小動物の生息環境づくりのため ・月x8回、施設内の見回りや水路内の管理作業を実施。 目的：水路及び周辺の良好な環境を維持している。 ・水路内のゾーニング作業を実施。 目的：看板や柵を使い、保護エリアを明確にし、閉鎖管理することで生物の休息や繁殖の空間を守る。 ・選択的除草の実施。 目的：造園会社による年4回の選択的除草を行い、外来草本を抑制し、在来草本に良好な環境を維持している。 ・目視による点検の実施。 目的：日常的に点検することにより、現場の変化や問題への対策に迅速に対応する。	**【モニタリング対象】** 連携団体（遅野井川かっぱの会）：水生昆虫、底生生物、魚類、 両生類、爬虫類、鳥類 杉並区：底生生物、魚類、鳥類 **【モニタリング場所】** 遅野井川親水施設 **【モニタリング手法】** 捕獲による生物調査（時間内の種類、個体数の記録） および、目視による調査 **【実施時期及び頻度】** 連携団体（遅野井川かっぱの会）：遅野井川のかっぱの会の調査イベントは年5回。 杉並区：杉並区河川の生物『＜第８次＞河川生物調査告書』この報告書は5年に１回発行、『杉並区自然環境調査報告書＜第７次＞』この報告書は5年に１回発行。 **【実施体制】** 連携団体（遅野井川かっぱの会）：運営委員、イベント参加者 杉並区：環境調査会社、市民調査員